

# 令和6年度 学校関係者評価 総括

## I. 学校関係者評価の概要と実施状況

### 1. 学校関係者評価の目的

- 1) 看護学校の自己評価結果を元に、外部の意見を反映する学校関係者評価委員会を開催し、その意見を教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に活用する
- 2) 学校関係者との連携により、特色のある学校づくりを推進する。

### 2. 学校関係者評価委員

規定	委員
教育に関し知見を有する者	大学教員養成センター 教授 看護専門学校 教務部長
看護管理者経験者	臨地実習施設 看護部長
卒業生	卒業生
保護者等	保護者

### 3. 学校関係者評価実施日

評価日時：令和7年3月11日（火）

場所：3階講義準備室

## II. 令和6年度 看護学校目標

1. 教育の充実を図るための働き方改革
2. 学生の社会人基礎力の育成
3. 広報活動と学生募集における質の高い学生の確保
4. 専門領域の強化による教員の実践能力および学校マネジメント力の向上
5. 「チーム学校」としてのパフォーマンス向上
6. 臨床との連携の強化による卒業生支援（継続教育）

## III. 目標についての取り組みと今後の課題

### 目標 1. 教育の充実を図るための働き方改革

取り組み	1) ICT活用による業務の効率化をする 2) 教員以外でもできる業務を整理しタスクシフトする 3) 業務の見える化によりムリ・ムダ・ムラを削減する 4) 共有フォルダ、書類、マニュアルを整備して活用できるようにする
評価	1) ICT活用による業務の効率化をする ICTの活用に関しては、HOSP回線の更新に伴うデータ記憶媒体の使用制限に伴い対策を考えた。講義資料をさくら連絡網で配信したことで印刷業務や資料整理などの業務が効率化できた。また、学生はタブレットで配布された講義資料で授業を受けるため、資料の確認がしやすく学習効果が高まった。

	<p>2) 教員以外でもできる業務を整理しタスクシフトする</p> <p>3) 業務の見える化によりムリ・ムダ・ムラを削減する</p> <p>今年度より教育体制を変更した。学年ごとではなくカリキュラム・実習・総務の各役割ごとのチームで業務を進めることで、学年を超え業務の相談ができるようになった。学年の運営や学生の状況に対する情報共有は、朝のミーティングや情報ノートを活用した。また、学年ミーティングを実施し、学生指導について教員間で共有するようになった。</p> <p>業務改善プロジェクトチームの活動や教務助手や事務員へのタスクシフトにより、教員の業務が整理され超過勤務時間の減少につながった。学生の成績（終講試験や実習評価点）は前年度との変化はなかったため、働き方改革につながった。</p> <p>しかし、カリキュラム・実習・総務で問題となっていることの共有が不足していた。そのため、業務チーム内の問題を他のチームがわからず、協力体制が不足していた。今後は問題に対して早期に対応できるよう、リーダー会を定期的に行うことにより、各業務間の問題の共有を行い、教員全体で対策を考えて行くことができるようにしていく必要がある。</p> <p>4) 共有フォルダ、書類、マニュアルを整備して活用できるようにする</p> <p>共有フォルダの整理を進めており、保存に関する取り決め事項について今年度中の完成を目指して進めている。データを共有化することで、資料作成時間の短縮が期待できる。書類は文書管理規定に則って年に1回破棄し、活用しやすい環境としている。</p>
<p>今後の取り組みと課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共有フォルダの整理を進めており、保存に関する取り決め事項について今年度中に完成させ、次年度は共有フォルダを整理していく。</li> <li>・今後も業務内容を見直し、タスクシフトできるものは実施していく。</li> <li>・超過勤務の理由は「カリキュラム担当業務」「担任業務」「学生指導」となっており、さらに具体的な業務の可視化が必要になっていることがわかった。「カリキュラム」「実習」「総務」ごとに加え、学年業務をさらに具体的に見直すことで、タスクシフトや業務調整のあり方につなげていきたい。</li> <li>・今後も計画的な業務調整を行い、年次休暇を取得しやすくしていく。</li> </ul>

## 目標 2. 学生の社会人基礎録力の育成

<p>取り組み</p>	<p>1) 学生が主体的に学習できるように学習環境の整備をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像教材のサブクリプションの導入</li> <li>・CKS ナーシング（問題集とわかりやすい解説、模擬患者カルテで、学生が自ら学び考える力を養うオンライン教材）の導入</li> <li>・長期休業中の学校開放</li> </ul> <p>2) 専門職業人としての責任感を醸成する教育的関りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力の定期的な自己評価と意識づけ</li> <li>・社会人基礎力の特別講演の開催</li> <li>・主体的に欠席報告を行う方法の導入（さくら連絡網の活用）</li> <li>・年間を通じての臨床ワークの実施</li> </ul>
-------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戴帽式前研修の実施</li> <li>・国立病院総合医学会のボランティア参加</li> <li>・委員会（広報）活動</li> </ul> <p>3) 学生自身が満足できる自治会活動の支援をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画に沿って支援を実施</li> <li>・自治会役員交代のあいさつ実施</li> </ul>
評価	<p>1) 学生が主体的に学習できるように学習環境の整備</p> <p>学生の主体的な学習を促すために、映像サブスクリプションや問題集とわかりやすい解説、模擬患者カルテで、学生が自ら学び考える力を養うオンライン教材である CKS ナーシングの導入をおこなった。映像サブスクリプションは、教員が学生の学習効果を考え 50 本精選し提供したが、活用は個人差があり、教員が指示した教材は 270 再生回数であったが、その他は 0～50 回の再生回数であった。主体的に学習できる学習環境は整備したが、活用できていない状況である。今後、学生がさらに主体的に学習できるように、支援方法を検討していく必要がある。CKS ナーシングは、3 学年とも教員が国家試験問題を学生に配信し効果的に活用できた。</p> <p>今年度から新たな教材を取り入れたが、各学年で活用状況や学生へのリフレクションの方法について共有する場が少ないことが課題として挙げた。次年度は効果的な振り返りや使用のタイミング等について教員間で検討を行っていきたい。</p> <p>長期休業日は学校を開放し、自由に学習できるようにした。夏季休暇中に、3 年生はのべ 184 名、1 年生は 334 名の登校があった。また放課後の技術練習のための実習室使用状況は、4 月～12 月でのべ 2,763 人の学生が使用しており、国家試験学習や技術練習など課題意識をもって主体的に学習する学生にとっては学習環境を整えることができた。</p> <p>図書室の 12 月までの利用者数・貸出数を昨年度と比較すると、利用者数は 645 人減少、貸出数は 1350 冊減少している。学生が普段から電子媒体で学習しているため、本を利用することが少なくなってきた。しかし、図書室の本や雑誌の内容を理解しておらず、活用できていない学生も多いと考えられるため、学生への普及活動を推進していく。</p> <p>2) 専門職業人としての責任感を醸成する教育的関りをする</p> <p>社会人基礎力については、定期的に自己評価を実施した。1 年生（78 回生）は、4 月より 7 月には発信力が 0.6 点高くなっており、研修や日々の役割を通して向上したと考える。2 年生（77 回生）は、入学時より想像力が 0.4 点高くなっている。その他、主体性、状況把握力、ストレスコントロールも高くなっている。日常生活援助実習の経験から、患者の気持ちを想像し個別性に応じた看護を考え、状況を把握する力が高まったと考える。3 年生（76 回生）は、傾聴力 3.9、柔軟力 4.2、状況把握力 3.9、規律性 4.1 と高い数値を示している。実習を通し、専門職業人として社会化が進んだと考える。しかし、社会人基礎力をなぜ高める必要があるかという必要性の理解が不足している学生もいるため、社会人基礎力の特別講演を実施した。評価を行うことで学生が自己の現在不足している力を意識し、主体的に取り組んでいくことができるようになると考えられるため、今後も継続していく。</p>

	<p>今年度より、さくら連絡網で自主的に欠席報告を行う方法を導入した。その結果、前年度と比較できる 77 回生（2年生）を見ると、1年次は無断欠席が 200 回であったが、2年次は 18 回と大きく減少した。</p> <p>令和 6 年度は年間を通して臨床ワークの機会を作り、12 月までの実績で令和 5 年度と比較できる 8 月の実績は、令和 5 年度は 8 名参加、令和 6 年度は 27 名で増加しており、看護師としての社会化に向けた基礎的な能力の育成には繋がっていると考えられる。また、1年生、2年生共に、コンスタントに参加する学生もおり、よい機会となっている。</p> <p>式典（戴帽式）前の研修でも職業倫理観を高めることができるため、次年度も継続していく。また、今年度は国立病院総合医学会でボランティアスタッフとして参加し学会での重要な役割に学生が積極的に取り組む姿見られた。日々の委員会活動においては SNS 作成に学生が主体的に取り組むこともできており、学校行事や委員会活動を通して役割遂行を支援する関りが実践できている。</p> <p>3) 学生自身が満足できる自治会活動の支援をする</p> <p>学生自治会活動はコロナ禍で実施していなかった期間があったため、学生だけの活動は難しい状態である。学生自身が主体的に活動できるように教員が支援していく必要がある。学校の環境美化やクラブ活動の再開も課題である。</p> <p>今年度は、学生が主体的に学ぶ学習環境として、CKS ナーシングの導入や長期休暇中の学校開放の実施、また自治会活動をはじめ、日々の役割や実習を通し社会人基礎力の育成を行えたと考えられる。</p>
<p>今後の取り組みと課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像サブスクの導入や休業日の学校開放など、学生が主体的に学習できるような環境は整えたが、活用が十分にできていないことがある。映像サブスクに関しては、教員が視聴するように指示したものについては視聴しているが、主体的に見ている学生が少ない。教員の意図的なかわりが必要である。</li> <li>・図書室の利用については、図書委員が新刊図書の紹介を行っているが、それ以外にも実習前の事前学習での使用を促し効果的に活用できるようにしていく。</li> <li>・社会人基礎力は各学年が定期的に自己評価することにより、現在の課題が明確になっている。今後も自己評価をすることにより、低い項目への働きかけをしていく。</li> <li>・欠席・欠課については、体調不良で欠席をする学生には、体調管理について指導や支援をしていく必要がある。家庭の事情などで欠席したり、遅刻が多い学生については生活状況を把握し、個別指導していく。</li> <li>・臨床ワークは、病棟での看護を身近にみることができ、社会人基礎力を高めることができるため今後も継続していく。</li> <li>・自治会活動は今までの活動の評価・修正を行う。今後は会則に明記されている中央委員会の開催を計画的に行い、より良い学校生活を行うために必要な活動を学生自らが積極的に主体的に行うことができるような活動内容を共に考え支援していきたい。満足度に関しては年度末のカリキュラム評価で把握していく。</li> </ul>

目標 3. 広報活動と学生募集における質の高い学生の確保

<p>取り組み</p>	<p>1) 広報企画室と連携して HP をはじめとした広報媒体のリニューアルを図る</p> <p>2) HP、インスタグラム、スタディサプリの更新回数をあげる</p> <p>3) オープンキャンパスおよび個別相談会を強化する</p> <p>4) 新規推薦指定校への積極的アプローチを図る</p> <p>5) 入学後の学生の学習状況の追跡、分析をする</p>
<p>評価</p>	<p>1) 広報企画室と連携して HP をはじめとした広報媒体のリニューアルを図る</p> <p>2) HP、インスタグラム、スタディサプリの更新回数をあげる</p> <p>今年度、広報企画室と連携し、学校ホームページや Instagram を通して本校の情報を発信していった。</p> <p>ホームページは全アクセス数 17479 件（前年比-6.9%）であった。Instagram は今年度新規に 300 人以上のフォロワーを獲得し、2 月 1 日現在は 585 まで伸びている。5 月以降は週 1 回以上の投稿を継続していること、分析ツールを活用して意図的に配信したことがフォロワーの上昇につながったと考える。また学生の広報委員と協力し、学生目線での投稿を行ったことで動画 12 万回再生以上、500 いいね！を獲得している投稿がある。ホームページの有効的なアクセス数や Instagram のフォロワーも増加し、学生募集につながった。オープンキャンパスの参加者数も昨年度と同じ程度と当校への興味関心を高めることができた。今後も学生が目線で発信し学生確保につなげていく。今後も広報企画室と連携し、現在の学生の感覚に合った広報媒体を検討していきたい。</p> <p>3) オープンキャンパスおよび個別相談会を強化する</p> <p>昨年度から開始した個別相談会を継続して実施している。本校への関心の高い人が個別のニーズを満たして受験につながっている状況である。オープンキャンパスのプログラムの中でも個別相談を取り入れ、受験生のニーズを満たしていく必要がある。現在ホームページのリニューアルやパンフレットの作成に順次取り組んでいる。</p> <p>推薦入試（指定校・公募）社会人入試ともに、応募者数が増加した。これは、試験科目の変更、入試日程の短縮、公募推薦については応募資格を拡大したこと、新規推薦指定校を増やしたことなど多くの取り組みを行った成果と考える。また、その取り組みを広報活動で情報発信できたことが、一定の成果につながったと推測する。</p> <p>今年度スタディサプリアを導入し、オープンキャンパスの申し込みを一元化し、入試と一貫して入学希望者のデータを管理できるようにした。受験者の動向を分析し、次年度の学生募集を効果的に行うようにしていく。</p> <p>入学後の学生は、成績や学習への取り組みに二極化が見られる。成績下位の学生に対し、個別的な支援が必要である。今後、成績別に講義を行うなど学習支援の方法を考えていく。</p>
<p>今後の取り組みと課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の広報委員や広報企画室と連携し現在の学生の感覚に合ったホームページのリニューアルや Instagram の発信の継続</li> <li>・ホームページや Instagram と連動した学校パンフレットの作成</li> <li>・質の高い学生を選抜するために入学前からのデータの分析を継続し、入学後の学生指導に活かしていく。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績や成績状況に応じて研修内容や方法を個々に支援する必要がある。</li> </ul> <p>⇒3 クラス編成を検討</p>
--	--

目標 4. 専門領域の強化による教員の実践能力および学校マネジメント力の向上

取り組み	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学会や研修に積極的に参加して各自 1 回以上伝達講習をする</li> <li>2) 研究の継続、発表を各自 1 題以上実施する</li> <li>3) 授業研究の実施と参観およびリフレクションに積極的に参加する</li> <li>4) 日常の業務で意識的に管理的視点をもって実践する</li> <li>5) 臨床実践および管理に関する実務研修に参加する（臨床への異動希望者は 5 日以上の管理に関する実務研修をする）</li> </ol>
評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学会や研修に積極的に参加して各自 1 回以上伝達講習をする  <p>学会に、のべ 37 人、研修にはのべ 15 名の教員が参加している。しかし、学会参加後の伝達講習は現在 1 回である。今後の教員会議で計画的に実施していく。</p> </li> <li>2) 研究の継続、発表を各自 1 題以上実施する  <p>研究に係る費用として研究助成金を受け、金銭的にも保障されており、研究助成金を計画的に使用している。</p> <p>国立病院機構近畿グループ内の教員研修会では、教員が研究課題を持ち取り組みの計画をし、実施している。3 月の活動報告にむけて結果をまとめている。</p> <p>今年度は、国立病院総合医学会にて 4 題、日本助産学会学術集会にて 1 題、6 名の教員が発表した。</p> <p>研究時間の保証はされているが、計画的な研究時間の取得ができていない。5 名の教員が計 94 時間確保する予定であったが、実績は、2 名の教員が 12 時間の確保であった。今後計画的に研究活動を行っていく必要がある。</p> </li> <li>3) 授業研究の実施と参観およびリフレクションに積極的に参加する  <p>9 名の教員が授業研究を実施し、そのうち 3 名は近畿グループ 4 校との合同授業研究を実施した。合同で実施した授業研究は 3 学年共に臨床判断を学ぶ授業とし、新カリキュラムとして強化すべき内容について積極的に意見交換を行った。各授業研究の参加者は平均 5 名であり、多い授業では 8 名の教員が参加した。また、授業研究だけに限らず日々の演習応援教員の数を増やし、教授方法についてその都度意見交換を実施した。次年度も計画的に授業研究を行い、教授方法を検討し教育実践能力の向上につとめていく必要がある。</p> </li> <li>4) 日常の業務で意識的に管理的視点をもって実践する  <p>今年度、効率的に業務ができるよう業務改善プロジェクトを立ち上げ、プロジェクトメンバーを中心に業務改善し、システム化を図った業務は 8 点あった。それぞれ業務改善を行って点は、教員一人一人が効果を実感し、現在も継続されている。</p> <p>業務改善でシステム化をはかったことにより、学生への対応や時間割作成などに時間を使えるようになった。今年度の時間割提示順守率は 80%である。また教員が意見を出し合うことにより、現在行っている業務の見直しができた。今後も現在行っている業務がこの方法でよいのかという問題意識をもって取り組むことにより、管理的視点を高めることにつながると思う。</p> </li> </ol>

	<p>5) 臨床実践および管理に関する実務研修に参加する (臨床への異動希望者は5日以上の管理に関する実務研修をする)</p> <p>教員の実務研修は、今年度は、令和6年12月現在で、1名の教員を除き、各自がマネジメントで課題とする点について学びを得た。前年度は5日以上の研修を行った教員は0名であったが、今年度は1名が計画的に研修を行い、教育担当師長と病棟看護師長の両者からの管理的視点を学び得ることができた。また、他校の看護学校運営について学ぶ研修に参加した教員は、習熟度別クラス運営など研修からの学びを伝達共有し、次年度の当校の運営に活かすことができた。</p> <p>各自が、計画的に専門領域とする学会や研修に参加し、管理的視点で業務改善にも取り組み実践能力および学校マネジメント力の向上にはつながったと考える。</p>
今後の取り組みと課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究時間を計画的に取得できるように、月初めに日時を決める。また研究発表も積極的に進んでいく。</li> <li>・ 学会参加後の伝達講習を教員会議で計画的に実施していく。</li> <li>・ 実務研修は次年度も継続して行う。それぞれの計画にあわせ、複数日の実施などフレキシブルに実施し各自の能力向上に努める。</li> <li>・ 業務改善は管理的視点をもって継続的に取り組んでいく。</li> <li>・ 日々の授業応援では、調整が授業間際となっていたことがあったが、授業研究に限らず、日々の授業調整も計画的に調整し、コミュニケーションを密にし教員の実践能力の向上に努める。</li> </ul>

#### 目標5 「チーム学校」としてのパフォーマンス向上

取り組み	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 会議やミーティングの在り方を検討して発言できる機会を均等に持つようにする <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年ミーティングの実施</li> <li>・ 担当業務ミーティングの実施</li> <li>・ プロジェクトミーティングの実施</li> </ul> </li> <li>2) 「助けて」を言い合えるチームをつくる <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝のミーティングで昼休憩時間の調整</li> <li>・ 挨拶運動や食事会の開催</li> </ul> </li> <li>3) どのような事象がハラスメント手前のグレーゾーンになるのかの認識を教員間、学生・教員間で共有する</li> </ol>
評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 会議やミーティングの在り方を検討して発言できる機会を均等に持つようにする 教員全員が意見を出し合い教育内容や方法を決定していくために、学年・プロジェクト・業務グループなどでミーティングの機会を持った。その結果、会議でも活発に意見交換ができるようになり、提案された内容がブラッシュアップできている。</li> <li>2) 「助けて」を言い合えるチームをつくる 毎朝5分間の学年ミーティングを行い、昼休憩時間も決めることで休憩時間のマネジメントができ、学生対応などは調整済みのため気にせず約60分とることができるようになった。休憩時間は家族のことや世間で話題になっていることなど仕事に関係のない話をすることができ、仕事の緊張感を和らげる時間になっている。年休取得もお互い声を掛け合い、5日全員が取得できる予定である。また心理的安全性プロジェクトチー</li> </ol>

	<p>ムの挨拶運動や食事会開催などの取り組みにより、各教員同士が緊張感なく話しやすい雰囲気を持つことができるようになり、助け合えるチーム作りができたと考える。しかし、勤務時間内に仕事が終了できない状況はある。超過勤務の内容は、講義準備や学生のレポートの指導など他の教員に依頼しにくい内容のものもあるが、皆で協力できるものもある。超過勤務内容を具体的に洗い出すことにより、問題点を明確にし、業務改善に活かしていく必要がある。</p> <p>3) どのような事象がハラスメント手前のグレーゾーンになるのかの認識を教員間、学生・教員間で共有する</p> <p>今年度、学生から実習記録用紙（関連図）に「これだけ？」と書かれたことにモチベーションが下がったや、他の学生の前で大きな声で「身だしなみを整えなさい。」と威圧的に言われたという意見があった。日々の学生への指導の一場面であるが、学生と教員との間で認識のずれがあると思われる。どのような事象が現代の若者にとってハラスメントと受け取られることとなるリスクがあるのか、グレーゾーンなども知り予防を行う必要がある。</p> <p>ハラスメント対策については、看護教育におけるハラスメント対策について3月に特別講演を聞くことで知識を持ち、学生指導に活かすことができるようにしていく。今後は当校における学生と教員の認識を調査するなどし、より具体的に実践できるようにしていく。</p> <p>ミーティングの開催や昼休憩時間の確保、心理的安全性プロジェクトチームの活動により、教員同士が緊張感なく話しやすい雰囲気ができ対話が増えた。助け合えるチーム作りができたと考える。</p>
<p>今後の取り組みと課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理的安全性を高める取り組みの継続をおこなっていき、さらなる助けてと言ひ合えるチームづくりを行う。</li> <li>・超過勤務内容を具体的に洗い出すことにより、問題点を明確にし、業務改善に活かしていく必要がある。</li> <li>・当校における学生と教員の認識を調査の実施を行う。</li> </ul>

目標6 臨床との連携の強化による卒業生支援（継続教育）

<p>取り組み</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 卒業生が相談できる体制を強化する ホームカミングデイの実施</li> <li>2) 卒業生支援としてラダー研修を看護部とともに企画運営する 新人研修への教員の参加</li> <li>3) 医療者育成支援として特定行為研修に協力する</li> <li>4) 薬剤部実習生（薬剤師含む）への研修企画、運営をする</li> <li>5) 実習指導者研修の企画・運営</li> <li>6) 看護部への公開授業の計画</li> </ol>
<p>評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 卒業生が相談できる体制を強化する 卒業生が相談できる体制の強化としては、ホームカミングデイを開催している。今年度は卒業生73名に対して参加者49名であり、仕事上の悩みなどをお互いに話す機会になったと考える。しかし、参加していない学生が仕事上の悩みを抱えていることもある。</li> </ol>

	<p>9月までの卒業生の来校実績としては合計4名である。9月以降の来校はなく、母体病院の離職は2月現在合計3名である。インシデントによる自責の念や、急性期病棟の重圧に耐えられないこと、多忙であることが要因とのことであるが、離職前に学校への相談はない。今後も母体病院に指導に行った際には、声をかけるなどして卒業生支援を行い、離職防止につなげていく。</p> <p>2) 卒業生支援としてラダー研修を看護部とともに企画運営する</p> <p>3) 医療者育成支援として特定行為研修に協力する ラダー研修や特定行為研修へは、臨床からの依頼があれば今後も対応していく。 臨床との連携強化による医療者育成支援については、新人看護師研修への参加を行っている。</p> <p>4) 薬剤部実習生（薬剤師含む）への研修企画、運営をする 薬学部学生への研修を行い、看護師が学ぶ内容についての理解をしてもらい、多職種連携を強化している。今後も多職種連携ができるよう取り組んでいく。これは、卒業生支援だけでなく、教員の教育力の向上にも影響している。</p> <p>5) 実習指導者研修の企画・運営 実習指導者研修は開催時期を昨年度より1か月早めた5月にしたことは、研修後すぐに実習指導に活かすことができる時期でもあり良かった。グループワークは効果的であったので課題について話しあうだけでなく、交流の時間を入れていくことも検討したい。実習指導経験の有無に関係なく、研修後は実習指導に興味関心が深まっていたことから、研修内容は適切であり、実習指導者の教育的介入に必要な知識・技術および態度を修得する機会となった。</p> <p>6) 実習指導者向けに、学生のレディネスが理解できるような公開授業を計画・実施した。授業の内容は学生のレディネスが把握できる内容を精選し「バイタルサイン測定実技評価」とした。今年度臨床からの参観希望者はいなかったため、次年度に向けて実習指導者への希望調査を行う予定をしている。</p>
<p>今後の取り組みと課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームカミングデイ開催を6月の1回のみでなく、新人看護師に負担がかかる時期や年度末の退職を考える時期を臨床とともに検討し、近況報告や相談のできる環境をつくる。教員が多忙そう、17時以降となると教員の勤務時間外となると考えるという意見があったので来校日時を提示するなどする必要がある。</li> <li>・薬学部学生への研修は、今後も実施し多職種連携ができるよう取り組んでいく。</li> <li>・実習指導者研修は次年度も参加者のニーズに答えられる研修を企画し実施していく。</li> </ul>

<総括>

学校目標に沿って教育実践したことを丁寧に評価されており、教育の質の保証と向上に努められていることがわかった。ホームページでは、学生が生き生きとしており、よい環境で学んでいることが理解できた。教員の業務のムリ、ムラ、ムダを無くし、心理的安全性を担保されていることが教育に反映されていると感じた。学習環境の整備では、学生が図書室を効果的に活用できるよう働きかけてほしい。また、チャットGTPなどの生成AIへの対策を考えることも必要である。

全体的に理念に基づいた教育がされている。今後も学生、教職員ともに心理的安全性の高い教育環境の整備を行い、さらなる教育の質の向上を目指して欲しい。